日本都市社会学会ニュース

NO. 126 （2023.11.29）

※事務局が移転しました
事務局：〒512-8512　三重県四日市市萱生町 1200
四日市大学総合政策学部　三田泰雅研究室内
e-mail:usocio@urbansocio.sakura.ne.jp
TEL:059-340-1405
（振替口座：00140-4-703976） URL: https://urbansocio.sakura.ne.jp/

会長就任にあたって　浅川達人（早稲田大学）

2023 年９月６日の日本都市社会学会大会総会で会長に再任されました。改善すべき課題に対してまだ十分に対処できていないということで、任期いっぱいまで務めよという要請であると考えております。前期理事会は、with コロナの状況に少しずつ対応することに精一杯で、その他の改革・改善に努めている余裕はありませんでした。目立った改革は、論文を投稿する際に必要だった３部のコピーを止めて PDF での提出に変更したことや、コロナ禍で中断していた韓国地域社会学会との交流を再開したことなどかと思います。前期理事のみなさま、各種委員のみなさまには大変お世話になりました。ありがとうございました。

学会運営を持続可能なものとするためには、学会運営を下支えする事務局体制を持続可能なものにする必要があります。今期理事会では、まずはこの点をきちんと整備すべく準備を進めております。それに加えて、若手会員の増加を後押しするような方策を考える必要があります。これについては、会員のみなさま、特に若い会員の皆さまがそれぞれの現場で抱えておられる不安や不満がヒントになります。どうぞ気軽にお声がけいただければと思います。会員のみなさまにおかれましては、引き続きご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

第 41 回大会の報告　木田勇輔（椙山女学園大学）

日本都市社会学会の第 41 回大会は、2023 年 9 月 6 日（火曜日）と 9 月 7 日（水曜日）の 2 日間にわたり、関西大学（千里山キャンパス）で開催された。両日の参加者数は 81 名（会員 69、非会員 5、シンポ 2、韓国地域社会学会員 5）であった。

大会初日に開催された自由報告部会Ⅰでは英語報告 2 件を含む 4 件の報告が行われ、スタートから活発な議論が行われた。次いで、お昼の時間にはラウンドテーブル「都市社会学の研究倫理をめぐって」が開催された。初日午後にはテーマ部会 「インターセクショナリティから都市を捉えなおす」と 日韓合同セッション「大都市の再開発と居住問題」が並行して行われ、それぞれの部会で 4 件の報告が行われた（日韓セッションの内訳は韓国地域社会学会会員の報告 2 件、日本都市社会学会会員からの報告 2 件であった）。午後の部が終了した後には、総会と懇親会が開催された。大会 2 日目の午前には自由報告Ⅱ とⅢが並行して開催され、Ⅱでは 5 件、Ⅲでは 4 件の報告が行われた。そして、大会も大詰めを迎えた 2 日目の午後にはシンポジウム「大都市への移動を問い直す」 が開催され、3 件の報告をもとに密度の濃い議論が行われた。

私事を交え恐縮だが、筆者はこの大会をもって 2 期 4 年間にわたる企画委員の任期を終えた。企画委員として議論に参加してよく分かったのは、本学会では大会の企画に連続性を持たせる

ような工夫がなされているという点である。たとえば昨年度のラウンドテーブルではジェンダー、今年度のテーマ報告部会ではインターセクショナリティが扱われたが、これらの企画は従来の都市社会学では積極的に扱われてこなかった研究動向を取り上げるものであった。その一方で、大都市への移動をテーマにした今年度のシンポジウムは昨年度のテーマ報告部会を発展させたものであり、古くからある研究の課題に新たな視点をもたらすものであったと言えるであろう。

最後に、まだ完全にコロナ禍が終わったとも言い切れない状況の中で、開催校スタッフとしてご尽力された関西大学の教員・学生の皆様に改めて感謝申し上げたい。本学会としては久しぶりの懇親会も開催され、筆者もしばしの歓談を楽しむことができた。

第 41 回大会ラウンドテーブル「都市社会学の研究倫理をめぐって」

大会初日の 9 月 6 日 12：10～13：20 にラウンドテーブルが開催され、25 名程度が参加した。今回のラウンドテーブルは、コロナ禍以前と同様にランチセッションとして食事をとることもでき、3 年ぶりに形としての「ラウンドテーブル」を開催した。

嵜本圭子会員（大阪市立大学大学院）には質的調査の立場から「都市エスノグラフィーを書く上での倫理審査の課題」、片桐勇人会員（大阪市立大学大学院）には量的調査の立場から「大学院生からみた倫理審査の現状と課題」というタイトルで話題提供があり、大学院生が博士論文のために倫理審査を受けるさいに直面する課題を議論した。

研究倫理については日本社会学会でも検討中であるが、倫理審査のあり方が大学によって異なるため、問題の共有が難しい面がある。審査ではかならずしも社会学研究に即していない手続きを求められることもあり、現状の課題について意義のある情報交換ができた。

（企画担当委員　川野英二、松薗祐子、山本崇記）

総会記録

総会は大会 1 日目の 9 月 6 日（木）、下記の次第にそって関西大学千里山キャンパスで行われました。

1. **開会の辞**（有末賢常任理事）
2. **会長あいさつ**（浅川達人会長）
3. **開催校あいさつ**（関口理久子関西大学社会学部長・内田龍史会員）
4. **座長推挙**（小山弘美会員を選出）
5. **報告事項**

(1) 理事会報告

堤圭史郎事務局担当理事より、2022～23 年度の理事会内容の報告、会勢及び会費納入率について報告がありました。2023 年 2 月 16 日に、日本学術会議の独立性を維持する声明を発出しました。将来構想基金について、2 名への支出が決定されました。

(2) 企画委員会報告

山口恵子企画委員長より、2022～23 年度の企画委員会の活動について報告がありました。昨年に引き続き例会を実施し、非会員の方を含めて多くの参加を得られたと報告がありました。

(3) 編集委員会報告

五十嵐泰正編集委員長より、年報 41 号の編集作業過程について報告がありました。2023 年度は自由投稿論文 4 本の投稿があり、うち 2 編が掲載されました。

(4) 国際交流委員会報告

文貞實国際交流委員長より、韓国地域社会学会との交流について報告がありました。総会前に、韓国地域社会学会長と日本都市社会学会長が、交流にかんする覚書を交わしました。日本都市社会学会大会では、「大都市の再開発と居住問題」をテーマとした日韓合同セッションを開催しました。来年度は日本都市社会学会から韓国地域社会に参加し報告がなされる予定です。

(5) 新入会員紹介

堤圭史郎事務局担当理事より、2022～23 年度の新入会員 7 名の理事会での承認について報告がありました。

(6) 終身会員

堤圭史郎事務局担当理事より、3 名の会員による終身会員への申請について、理事会で承認されたとの報告がありました。

6. 第 13 回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）選考委員会報告および授与式

西田芳正選考委員長より選考過程および結果の報告がありました。2 回目の委員会で 5 本の著作を候補に選定し、3 回目の委員会で下記の 2 作を受賞作として決定しました。

松本康，2021,『「シカゴ学派」の社会学：都市研究と社会理論』有斐閣.
稲月正，2022,『伴走支援システム――生活困窮者の自立と参加包摂型の地域づくりに向けて』明石書店.

浅川達人会長より受賞者 2 名に表彰状と記念品が授与されました。引き続き受賞者の挨拶がありました。

7. 審議事項

(1) 2022 年度決算および監査報告

堤圭史郎事務局担当理事より、2022 年度決算について報告、次いで早川洋行監事から監査報告があり、 総会で承認されました。

(2) 2023 年度予算

堤圭史郎事務局担当理事より、2023 年度予算案について説明があり、総会で承認されました。

8. 新事務局について

浅川達人会長より、福岡県立大学の堤圭史郎研究室から四日市大学の三田泰雅研究室への事務局引き継ぎについて説明がありました。続いて、三田会員からの挨拶がありました。

9. 次年度大会について

浅川達人会長より、2024 年度の第 42 回大会を立教大学新座キャンパスで 2024 年 9 月に開催することが報告されました。

10. 次年度開催校あいさつ

開催校の立教大学高木恒一会員から次年度開催の挨拶がありました。

11. 役員選挙　開票と結果報告（敬称略）

会長（１名）浅川達人 24 票（次点　有末賢 3 票／高木恒一 3 票）
全国理事（４名）高木恒一 13 票・松宮朝 7 票・文貞實 7 票・妻木進吾 7 票
（次点　山本かほり 6 票／二階堂裕子 6 票／高木竜輔 6 票／齋藤麻人 6 票／中澤秀雄 6 票／五十嵐泰正 6 票／有末賢 6 票／川野英二 6 票／
地方区理事（各地区１名）
東日本：高木竜輔 12 票（次点　五十嵐泰正 12 票※くじ引き）

東京：有末賢 7 票（次点　中澤秀雄 7 票）
中部・近畿：川野英二 11 票（次点　山本かほり 11 票※くじ引き）
中国・四国・九州・海外：二階堂裕子 14 票（次点　堤圭史郎 13 票）
監事（2 名）横田尚俊 6 票・矢部拓也 5 票（次点　山本かほり 4 票／山本薫子 4 票）

開票の結果、東日本地区、東京都地区、中部・近畿地区では同点となったため、役員選出規程 5 条により、くじ引きを行い、上記会員が当選しました。

なお、選挙管理委員会から、被選挙権のない一部の会員が選挙人名簿の一部に含まれていた誤りがあったことが報告されました。被選挙権のない会員に一部投票がありましたが、選出された会員の票を上回る票はありませんでした。

（座長解任）

12. 閉会の辞（有末賢常任理事）

（事務局担当理事　三田泰雅）

2022 年度決算報告および 2023 年度予算案（事務局）

2022年度　日本都市社会学会　決算の監査報告

日本都市社会学会
2022年度　決算報告案（2022年8月1日～2023年7月31日）

収入 項目	予算	決算	備考
入会金	20,000	16,000	5名
学会費	1,500,750	1,669,600	24年度　一般：1名、学生：0名
			23年度　一般：133名、学生：20名
			22年度　一般：78名、学生：11名
			21年度　一般：12名、学生2人
			20年度　一般：8名、学生：1名
			19年度　一般：5名、学生：0名
			その他（学生1名2000円支払。23年度分2000円不足）
広告収入	10,000	0	
雑収入	90,000	106,181	複写権使用料等
年報販売	60,000	66,000	販売委託分（1200円）×55冊
終身会費	0	19,500	3名
繰越金	4,892,571	4,892,571	2022年度予算にて繰越金より2,000,000円（計3,000,000）を特別会計に繰入済
計	6,573,321	6,769,852	

支出 項目	予算	決算	備考
消耗品費	10,000	0	
通信費	90,000	44,490	年報発送料、宅配便送料、郵便代。
事務局業務委託費(印刷費、通信費を含む)	500,000	490,111	ニュース122～124号・編集・印刷・発送作業（300部）
年報印刷費	602,580	602,580	第40号（400部）
大会開催費	100,000	0	第40回大会（実践女子大学。大会参加費内で運営）
役員・委員会費	100,000	36,325	学会賞選考委員会旅費補助。
事務局費	150,000	157,352	アルバイト代、HP管理費（トップページ改良5000円）、振込手数料など
学会賞費	20,000	4,928	賞状、記念品等
企画委員会費	100,000	30,500	非会員謝金
編集委員会事務局費	50,000	13,215	編集関係通信費、J-stage登録料
国際交流費	100,000	0	海外出張費・翻訳費等
社会学系コンソーシアム年会費	10,000	0	（2023年度会費は次年度予算から支払）
会員名簿印刷費	150,000	137,280	350部
慶弔費	20,000	0	
コロナ禍による会費減額	70,000	29,500	2022年度分　一般：6名、学生：3名。2023年度　一般：1名、学生：3名。
予備費	4,500,741	0	
計	6,573,321	1,546,281	

次年度繰越金（一般皆生）　5,223,571

[特別会計]

留保 項目	予算	備考
将来構想基金	3,000,000	
残額	2,900,000	

支出 項目	予算	決算	備考
将来構想基金	400,000	100,000	2020年度分が領収書不着により未執行。2022年度将来構想基金による国際学会参加等支援（2名分）については、1名分を2022年度、もう1名分を2023年度に執行する。

次年度繰越金（一般会計＋特別会計）　8,123,571

※単年度会計（毎年計上されるもののみ）　収入　1,877,281　　支出　1,646,281

差額　231,000

監査の結果、関係書類並びに会計処理は適正であり、2022年度決算に相違がないことを認めます。

日本都市社会学会

2023年 8月 6日
監事　早川琢行

2023年 8月 9日
監事　和田清美

日本都市社会学会
2023年度　予算案（2023年8月1日～2024年7月31日）

収　入			支　出		
項目	予算	備考	項目	予算	備考
入会金	20,000	10名	消耗品費	10,000	文房具等
			通信費	90,000	郵便代、宅配便送料など。
学会費	1,530,000	一般240名、学生35名 納入率9割で計算	事務局業務委託費(印刷費、通信費を含む)	550,000	ニュース送料等 年報販売、ニュース（年間3回）編集・発送等
広告収入	10,000	年報掲載広告	年報印刷費	400,000	第41号（400部）、Jstage登録料
雑収入	90,000	複写権使用料等	大会開催費	200,000	第41回大会（関西大学）
年報販売	66,000	販売委託分（1,200円）×55冊分	役員・委員会費	100,000	役員・委員旅費補助
			事務局費	150,000	アルバイト代、HP管理費等、振込手数料
			学会賞費	20,000	賞状・記念品等
			企画委員会費	100,000	非会員謝金など
			編集委員会事務局費	50,000	J-stage作業代、英文校閲費等
			国際交流費	200,000	海外出張費・翻訳費等
			社会学系コンソーシアム年会費	10,000	2023年度分
			慶弔費	20,000	
			コロナ禍による会費減額	22,500	一般5人、学生5人
繰越金	5,223,571	特別会計に3,000,000円繰り入れ済	予備費	5,017,071	
計	6,939,571			6,939,571	

［特別会計］

留　保			支　出		
項目	予算	備考	項目	予算	備考
将来構想基金	**2,900,000**		将来構想基金	500,000	2023年度=300,000。2022年度分=100,000。2020年度分=100,000
残額	2,400,000				

第 13 回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）作品と選考理由

2023 年度学会賞選考委員会（以下、委員会）は、学会規約第 2 条第 3 項ならびに学会賞（磯村記念賞）内規の定めるところにより、第 13 回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）の選考を行いました。以下、選考経過、選考結果、選考理由について報告致します。

１．選考経過

委員会では、学会賞内規第 6 条（選考の方法）で定める(1)会員の自薦・他薦、(2)推薦委員による推薦、(3)学会事務局が会員を対象に行う文献調査によって作成された著作一覧をもとに、2021 年 1 月から 2022 年 12 月末までに公刊された著書 11 件を審査の対象とした。

第一段階として、2023 年 2 月 14 日および 3 月 30 日にオンライン開催した委員会で 11 件を対象として第 1 次審査を行った結果、以下の 5 件に絞り込んだ（刊行順）。

・松本　康『「シカゴ学派」の社会学―都市研究と社会理論』有斐閣、2021 年 3 月 25 日。
・浅川達人『都市を観る―社会地図で可視化した都市社会の構造』春風社、2022 年 2 月 17 日。
・松宮　朝『かかわりの循環―コミュニティ実践の社会学』晃洋書房、2022 年 3 月 10 日。
・稲月　正『伴走支援システム―生活困窮者の自立と参加包摂型の地域づくりに向けて』明石書店、2022 年 3 月 31 日。
・後藤範章『鉄道交通と巨大都市化の社会学―「東京」の構造変動』日本評論社、2022 年 9 月 20 日。

選考委員は、全員がこの 5 著作に目を通して比較考量し、内規第 7 条（選考の基準）を拠り所にして評点を与え（5 段階評価）、そのように評価した理由をコメントした審査票を作成し委員長に送付した。2023 年 7 月 9 日に開催した委員会（一部オンライン）で、全委員の審査票を集約して作成した一覧表（無記名）をもとに慎重に審議した結果、内規 8 条（受賞対象件数）に「受賞対象件数は、原則として 1 件とする。ただし、複数受賞を妨げない」とあることから、今回は 2 件を受賞作とすることに決定した。

２．選考結果（受賞作）

・松本　康『「シカゴ学派」の社会学―都市研究と社会理論』有斐閣、2021 年 3 月 25 日。
・稲月　正『伴走支援システム―生活困窮者の自立と参加包摂型の地域づくりに向けて』明石書店、2022 年 3 月 31 日。

３．選考理由

『「シカゴ学派」の社会学』は、都市社会学会をリードしてきた研究者の一人である松本が「調査データにもとづく経験科学」としての社会学がいかなる背景のもとで何を目指して登場し展開してきたのかを整理した著作である。本書のユニークさは、「シカゴ学派」とされる一群の研究の検討にとどまらず、「学派」として構築される経過を構造―機能主義や計量研究、マルクス主義の多様な研究（者）と対置させつつ描き出した点にある。終章ではシカゴ学派の特徴として科学的改革主義のアプローチがもつ今日的な可能性に言及されるが、本書の内容は、「黄金時代」におけるパークの言葉と同様に、社会問題の渦中に飛び込もうとする研究者たちを勇気づけるメッセージとなるはずである。

もう一つの受賞作である稲月の『伴走支援システム』は、問題が生起するただ中で、当事者・支援者と 20 年に及ぶ関わりを続けるなかでの研究成果をまとめた著作である。ホームレス支援を行う NPO 団体の実践から理論的含意をくみ取り、あわせて都市社会学で彫琢された諸理論を援用することで課題の解明と解決に迫ろうとする姿勢、「伴走支援システム」が展開されるそれぞれの段階で丹念な調査が実施され成果がフィードバックされるプロセスからは、「伴走する」社会学者の姿を見ることができる。

緻密な文献研究と支援の現場に足を下ろした調査研究という対照的な著作であるが、2 作ともに、大都市で生起する問題群の解明とその解決を目指して日本の都市社会学研究を切り開いた磯村英一の名を冠した賞にふさわしいものと言うことができる。審査委員会の一致した結論として、2 作を受賞作に選定した。

なお、２次審査に残らなかった著作も含め、多様なフィールドで意欲的な研究を進めた成果が多数あり、調査手法の洗練や調査現場からの重要な問題提起がなされていることについて評価する声が審査委員から多くあげられたことを付言しておく。

（学会賞選考委員長　西田芳正）

理事会報告

（1）2022-2023 年度第 4 回理事会報告

2022-2023 年度第 4 回理事会は、2023 年 8 月 30 日（水）に Zoom にて開催され、各種委員会報告の後、主に次年度予算案、次期理事会への引き継ぎ事項等が検討されました。

（2）2023-2024 年度第 1 回理事会報告

役員改選を受けての 2023-2024 年度第 1 回理事会は、2023 年 9 月 6 日の総会終了後に関西大学にて開催され、理事の役割等が審議されました。下記をご参照ください。

（3）2023-2024 年度第 2 回理事会報告

2023-2024 年度第 2 回理事会は、2023 年 10 月 15 日（日）に Zoom にて開催され、各種委員会報告の後、主に改選後の理事、各種委員会委員の確認、今期理事会の取り組み事項、次回大会（2024 年度）等について検討されました。

（事務局担当理事　三田泰雅）

2023～2024 年度各種委員会構成（事務局）

2023-2024 年度の各種委員会の構成は以下の通りです（敬称略）。

[企画委員会]委員長：二階堂裕子、副委員長：松宮朝、委員：伊藤泰郎、笹島秀晃、申惠媛、仙波希望、中川雄大、仁井田典子、平井太郎、八木寛之、山本かほり、山本崇記、吉田舞

[編集委員会]委員長：川野英二、副委員長：高木竜輔、担当理事：高木恒一、委員：植田剛史、小山弘美、武田俊輔、濱田国佑、赤枝尚樹、金南咲季、陸麗君

[国際交流委員会]委員長：妻木進吾、担当理事：文貞實、委員：山本かほり、申惠媛
[学会賞選考委員会]委員長：西田芳正
[社会学系コンソーシアム委員]担当理事：有末賢、三田泰雅
[2024 年度大会開催校]担当理事：高木恒一

（事務局担当理事　三田泰雅）

企画委員会報告

本年 9 月より、新たなメンバーによる企画委員会が発足しました。これから 2 年間、どうぞよろしくお願いいたします。

第 1 回企画委員会は、大会 2 日目の 9 月 7 日（木）に対面にて行いました。大会の反省や申し送り事項の検討と次年度大会に向けての意見交換を行いました。

第 2 回企画委員会は、10 月 15 日（日）にオンラインにて開催し、次回大会の企画を中心に検討しました。その結果、来年度の大会では、例年通り、シンポジウム、テーマ部会、ラウンドテーブルを開催することになりました。シンポジウムは、今年度大会のテーマ部会で取り上げた「インターセクショナリティから都市を捉えなおす」の議論とその知見をふまえて、より発展的な議論を展開できるよう企画を進めていきます。また、テーマ部会は、近年の社会動向を睨みつつ、今後テーマを設定していく予定です。さらに、ラウンドテーブルは、企画委員で人選を行い、コアになる方々にテーマを検討していただくという方向性が決まりました。特に、若手会員のみなさまに研究成果の報告や議論に参加していただきたいと考えております。詳しくは次回の学会ニュースにてお知らせいたします。

（企画委員長　二階堂裕子）

国際交流委員会報告

来年度は、韓国地域社会学会での日本都市社会学会会員の参加・報告を予定しております。また、今後、海外の学会との研究交流のために、国際交流委員会、企画委員会とともにテーマや内容を検討し、充実した学術交流を進めていきたいと考えています。

(国際交流委員長　妻木進吾)

将来構想基金による国際学会参加支援の募集について

将来構想基金を活用した会員の国際学会参加への支援を行っています。学会参加ならびに海外雑誌への投稿の際のネイティブ・チェックの費用についても支援の対象になります。詳しくは以下の通りですので、奮ってご応募ください。

応募資格：常勤職にない（機関からの支援を期待できない）会員（院生を含む）で、2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの間に、海外で開催される国際学会（オンライン開催を含む）への参加、海外雑誌への投稿などを予定している者。

応募方法:応募を希望する者は以下の項目に関する申請書を作成し、期日までに提出すること。なお、申請書の書式については事務局に請求すること。

- 参加国際学会名、開催地、開催時期、または投稿予定雑誌名
- 航空券の購入費用の概算額またはネイティブ・チェックのための費用の概算額
- 報告予定の有無、他に受けている支援の状況（学振等）、利用可能な研究費の実際、他に応募予定の支援の内容、に関する申告
- 履歴書、業績リスト

支援の考え方：支援の総額である 30 万円を、応募者の中から数名に対して 10 万円を上限に、それぞれの航空券もしくはネイティブ・チェックの費用等に応じて配分する予定。したがって、あくまで費用の一部を支援するにとどまる。

選考方法：選考が必要になった場合、他に受けている支援の状況、報告予定の有無、応募者の業績などを総合的に勘案して、理事会で決定する。

応募締切：2024 年 1 月 31 日。結果については、2～3 月の理事会で決定し、すみやかに通知する。

留意事項：虚偽の申告をした場合、必要な申告を怠った場合、常勤職に就いた場合は支給を取り消すことがある。支援を受けた者は、参加した国際学会での経験を報告する文書または論文投稿の結果を提出しなければならない。その内容については学会ニュースに掲載する予定である。

問合せ、応募先：応募についての問合せおよび申請書の書式については学会事務局にメールで依頼すること。応募も、期日までに学会事務局宛、申請書、履歴書、業績リストの 3 点を添付したメールで行うこと。

（事務局担当理事　三田泰雅）

第 10 回日本都市社会学会若手奨励賞候補の文献調査および推薦に関するお願い

日本都市社会学会若手奨励賞内規にもとづき、文献調査を行います。あわせて自薦・他薦の応募を受け付けます。若手奨励賞は「著書の部」と「論文の部」に分け、それぞれについて選考を行います。多くのみなさんからの応募をお待ちしています。

受賞対象及び資格者：今回、対象となるのは、（1）2022 年 1 月 1 日～2023 年 12 月末日の 2 年間に発表された単著書（著書の部）と論文（論文の部）です。なお、2016 年 9 月の総会で、若手奨励賞「論文の部」の受賞対象が、「原則として『日本都市社会学会年報』に掲載された単著論文とする。ただし、『日本都市社会学会年報』以外に発表された単著論文に関して、会員および推薦委員から推薦があった場合には対象に含める」と改定されております（内規 3）。

（2）有資格者は共に、公刊時点で博士（後期）課程入学後 10 年以内であった日本都市社会学会会員です。

文献調査：上記の基準を満たす著書を発表した会員は、2024 年 1 月末日までにオンライン上のフォーム（学会 HP トップページからアクセス）よりお申し込みください。この情報は、選考対象の母集団を構成するものですので、条件を満たすすべての研究業績についてご記入下さい。

自薦・他薦：上記の基準を満たす著書のうち、同賞にふさわしい「都市社会学に関する学術の進歩発展に貢献したと認められる研究業績」（内規 1）をご推薦下さい。会員であれば、だれでも推薦者となることができます。自薦も歓迎します。同封の調査用紙の自薦・他薦欄に所定事項をご記入の上、**2024 年 1 月末日まで**にオンライン上のフォーム（右 QR コードか、学会 HP トップページからアクセス）よりお申し込みください。

https://forms.gle/1m9PYVFPfRH3ZUzv5

宛先・問い合わせ先：この件についてのお問い合わせは、学会事務局まで e-mail でお願いいたします。学会事務局の連絡先は、本ニュース 1 頁目にあります。選考対象のリスト作成は、会員自身による文献調査報告や自薦がまずは基本となります。該当される方は、ぜひとも積極的にご対応下さい。

その他：第 10 回日本都市社会学会若手奨励賞の選考結果については、2024 年度の学会大会時に発表します。

（事務局担当理事　三田泰雅）

『日本都市社会学会年報』42 号 自由投稿論文・研究ノートの募集について【募集】

編集委員会では,『日本都市社会学会年報』第 42 号（2024 年 9 月発行予定）に掲載する「自由投稿論文」、「研究ノート」および「書評リプライ」の原稿を募集します。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしています。

投稿を希望される方は、本会 HP および年報各号表紙裏の投稿規程・執筆要項を遵守した原稿を作成してください。**原稿の word ファイルおよび PDF ファイルの 2 点を添付して、2023 年 11 月 30 日までに編集委員会事務局および学会事務局の両方に**メール送信してください。投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

送付先※（@を半角にしてください）
日本都市社会学会編集委員会事務局
kawano@omu.ac.jp
日本都市社会学会事務局
usocio@urbansocio.sakura.ne.jp

（編集委員長　川野英二）

会員異動

新入会員

（2023 年 8 月 30 日理事会承認）
<東京地区>
内野 海平（一橋大学大学院）
（2023 年 10 月 15 日理事会承認）
＜中部・関西地区＞
平安名 萌恵（立命館大学大学院）
平岡 俊一（滋賀県立大学）
＜中国・四国・九州地区＞
柳 永珍（九州産業大学）

ご逝去

木下 聖

会員の皆さまへのお知ら

コロナ禍にともなう院生会員・常勤職にない会員の学会費減額について（再掲）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、大学院生や常勤職にない会員が経済状態の悪化によって研究継続が困難になる可能性に配慮し、理事会では 2023 年度の学会費について減額を決定いたしました。減額を希望される方は申し込みフォーム（https://forms.gle/8hPRQK6UgXPcht166）からお申し込みください。

対象：学生会員（日本学術振興会特別研究員は除く）および常勤職にない会員（退職者を含む）

金額：一般会員 6,500 円を 4,000 円に減額。学生会員 4,000 円を 2,000 円に減額。

申込締め切り：2023 年 12 月末
入会金および 2022 年度以前の年会費は減額の対象になっていません。

（事務局担当理事　三田泰雅）

学会事務局からのお知らせ

■2023 年度 会費納入のお願い

年会費は一般会員が 6,500 円、学生会員が 4,000 円となっております。外国籍会員の場合、年会費減額の措置が適用される場合もあります。詳しくは、学会のホームページをご参照ください。

2022 年度までの学会費をまだ納入されていない会員の皆様は、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入してくださいますよう重ねてお願い申し上げます。継続して 3 年以上会費を滞納した場合、原則として会員の資格を失うことになります（学会規約 13 条）。また退会者は、退会前に発生した未納分の会費の納入義務を免れません（学会規約 12 条）。その旨ご留意ください。

本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、全国の金融機関（一部を除く）との相互振込が可能です。他の金融機関から本学会の口座に振り込む場合は、以下の店名・預金種類・口座番号・受取人名をご指定ください。

銀行名…ゆうちょ銀行
預金種類…当座
金融機関コード…9900
店番　…019
店名（カナ）…〇一九（ゼロイチキュウ店）
口座番号…0703976
受取人名…ニホントシシャカイガッカイ

■会員管理の外部委託および学会ニュース配信の検討

現在、理事会にて会員管理の外部委託と学会ニュースのメール配信について検討しております。会員の皆様にも随時お知らせしてまいります。

■ご所属先等変更のご連絡のお願い

ご所属先やご住所等が変更となられた会員の皆様もおられるかと思います。その場合は、事務局へメールにてご連絡くださいますよう、くれぐれもよろしくお願い申し上げます。

（事務局担当理事　三田泰雅）

■ごあいさつ

このたび学会事務局が移転し、2023 年度から 2 年間、四日市大学総合政策学部三田泰雅研究室にて事務局を担当することになりました。なお、学会ニュース 1 ページ目に新事務局の連絡先が掲載されていますが、会員の皆様からのお問い合わせやご連絡に関しては、前事務局同様、e-mail にてお願いできましたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局担当理事　三田泰雅）